

街道と鉄道

行き交う人・もの・文化

企画展

奥会津の道

2026

令和8年度奥会津7町村文化施設間連携事業



奥会津7町村文化施設間連携企画展 「奥会津の道」開催にあたって

「奥会津」は、福島県南西部を流れる只見川と伊南川の流域に位置する7町村（檜枝岐村・只見町・南会津町・柳津町・三島町・金山町・昭和村）の総称です。ブナの森が広がる豊かな自然に囲まれ、冬は深い雪に覆われる暮らしの中で、伝統文化が受け継がれてきました。一方で、国内でも特に人口減少と少子高齢化が著しく、未来への持続については不安が大きい地域でもあります。その中で奥会津の7町村は、連帯強化と共同事業を推進し地域振興を図ることを目的として只見川電源流域振興協議会を組織し、「自然の中に暮らすいとなみ、100年先のみらいへ」を基本理念にさまざまな事業を展開しています。

本企画展は、7町村の文化施設等が共通のテーマに関連した展示を同時期に行うものです。令和4年度からスタートし、今年度で5年目となりました。奥会津地域が一体となった歴史・文化の発信、文化施設間の連携強化、さらには交流人口の増加を目的とし、初年度の「写真展」に始まり、2年目は「縄文」、3年目は「冬」、4年目は「川」と展開してきました。どのテーマも、奥会津の自然と歴史、暮らしの文化と密接に関わり、地域をより深く多角的に理解する手がかりとなるものです。

そして本年度のテーマは、奥会津の「道」です。人・もの・文化が行き交ってきた街道や生活道、そして鉄道も含め、時代とともに変化しながら地域を結び続けてきたさまざまな「道」に関する写真、古文書、民具などの歴史資料の展示を通して、それらが果たしてきた役割や背景にある物語を紹介します。

また今回は初めて奥会津7町村以外に、下郷町、西会津町、会津美里町、県境を越えて栃木県の日光市、新潟県の長岡市、三条市、魚沼市も企画していただき、14市町村15施設での連携企画展となりました。ご支援ご協力を賜りました皆さまに厚く御礼申し上げます。「道」でつながる地域の歴史・文化を再認識しながら、郷土への誇りを深め、新たな交流を生み出す契機とし、未来への一つの道標となることを願っております。

令和8年7月

只見川電源流域振興協議会 会長 渡部 勇夫



写真提供:長岡国道事務所 八十里越天空大橋



写真提供:魚沼市歴史資料館 歴史の道八十里越 明治新道 田代平周辺



写真提供:長岡国道事務所 八十里越天空大橋



写真提供:小林 宗一 八十里越 入叶津

尾瀬写真美術館

檜枝岐村



施設情報

尾瀬を愛した山岳写真家・白旗史朗氏の作品を所蔵する写真美術館です。
1階の吹き抜けには、高さ9m幅15mの三条ノ滝大瀑布が圧倒的迫力で飾られています。2階には白旗氏が尾瀬の四季を撮えた作品などが展示してあります。その他、尾瀬の写真や絵などによる企画展も行っています。現在のデジタルカメラではなく4×5インチの大型カメラを駆使し、真正面から山と対峙した作品は、山の存在感を見事に写し取り、見る者に深い一体感を抱かせます。尾瀬写真美術館では、魅力あるさまざまな表情の尾瀬をたっぷり堪能できます。

会期 7月18日(土)―11月3日(火・祝)

〈時 間〉9:00～17:00(最終入館16:30)
〈休館日〉毎週水曜日(夏休み期間は無休)
〈観覧料〉無料

〒967-0522
福島県南会津郡檜枝岐村字左通124-6
ミニ尾瀬アートエリア内
TEL.0241-75-2065

展示内容

険しい山々に囲まれたこの檜枝岐村では、「道」は単なる移動手段ではありません。
峠を越えて物資を運んだ古道。
村人たちが季節ごとに行き交った生活の道。
尾瀬へ向かう登山道。
そして、人と人、文化と自然をつないできた記憶の道。
本写真展では、檜枝岐村に息づくさまざまな「道」の風景を通して、村の暮らしと歴史、そこに生きる人々の想いを見つめます。



1 よくきらった 尾瀬檜枝岐温泉観光協会 撮影:平野太郎
撮影場所:井籠門
入口側には「よくきらった」村外へ向かう側には「またきられ」と村の方言が記されています。



2 S40年道路舗装工事 尾瀬檜枝岐温泉観光協会
S40年道路舗装が始まり、観光村として発展が始まった。



3 只見川 尾瀬檜枝岐温泉観光協会
撮影場所:只見川
福島と新潟を結ぶ第一吊橋(昭28年竣功)この吊橋ができるまでは有名な箆渡しであった。



4 道路工事 尾瀬檜枝岐温泉観光協会



6 S29只見川を箆渡しで片貝え 尾瀬檜枝岐温泉観光協会
撮影場所:村内



5 昭和40年頃冬の檜枝岐 尾瀬檜枝岐温泉観光協会
撮影場所:村内



7 冬季通行止め 尾瀬檜枝岐温泉観光協会 撮影:平野太郎
撮影場所:村内

4

先人たちは道なき道を切り開いてくれた。

5

檜枝岐の冬道。

6

橋がなかった際の移動手段。まさかと思うが箆渡しは今もなお現存する。

7

冬季間、檜枝岐村より先に行くことはできない。

ただみ・モノとくらしのミュージアム

只見町



施設情報

国指定重要有形民俗文化財「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」2,333点を収蔵・展示している博物館です。民具収蔵庫を新設し、収蔵展示として公開しています。展示棟では、企画展を年に2回程度開催しています。

会期 7月18日(土)―11月29日(日)

〈時 間〉 9:30～17:00(最終入館16:30)

〈休館日〉 月曜日(祝日の場合は翌平日)

〈観覧料〉 無料

〒968-0602

福島県南会津郡只見町大字大倉字窪田30番地

TEL.0241-86-2175

展示内容

只見町には、1万点以上の民具コレクションや、町内で発掘された考古資料があります。その中から、六十里越峠や八十里越峠などを通じて、他地域とやり取りされた資料を紹介します。同時開催の企画展は、『なにでできてる?―素材からみる民具―』です。企画展の中にある「道」に関する資料を探しながら、両展覧会をお楽しみください。



1 民具収蔵庫

国指定重要有形民俗文化財「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」の民具が収蔵されています。収蔵庫内は見学することができます。



2 収蔵庫内の仕事着コーナー

国指定民具の中には、仕事着416点が含まれています。多くの仕事着の生地には、新潟県加茂市で生産された加茂縞が使われています。



3 収蔵庫内の麻糸製造用具コーナー

国指定民具の中には、麻糸製造用具131点が含まれています。只見地方は、アサと青苧の生産が盛んな地域で、青苧は越後へ、麻織物は京・大阪・江戸へと輸出されました。



4 窪田遺跡出土の黒曜石 (左から長野県産、栃木県産、新潟県産)



6 八十里越・木の根小屋前の蚕種の行商(1913年)



5 六十里越・日光道への道標



7 ゼンマイ採りで着用する仕事着 クモッケツ

4

只見町出土の黒曜石は、窪田遺跡28点、七ノ刈遺跡1点、深沢遺跡周辺2点、出土地不明1点の計32点あります。長野県産が一番多く、栃木県産、新潟県産もあります。八十里越峠、六十里越峠を越える流通ルートがあったことをうかがい知ることができます。

5

天保14年(1843)建立の道標です。会津若松―新潟間の旧道に位置する南会津署只見交番付近で発見されました。正面に「右ハ越六十里峠 左ハ田嶋日光道」、右面に「天保卯(天保14年)、左面に「田ノ口孫兵衛田中長兵衛寄進」と書かれています。

6

只見地方では養蚕が盛んで、多くの種屋がありました。只見から新潟県へ至る八十里越の峠道を越えて蚕種の行商を行なっていました。標高845mの峠にあった木の根小屋(茶屋)は、1868年8月に河井継之助が休んだといわれています。

7

袖なし型の仕事着で、尻部は大きな袋状です。採ったゼンマイを入れると膨らみ、蜘蛛のお尻のようになるのが名前の由来です。1950年ごろに新潟県から入ってきて、それをまねたものが普及しました。みんぐふれあいホールで、実際に着ることができます。

只見町 河井継之助記念館

只見町



施設情報

幕末、戊辰戦争に不本意な形で巻き込まれ、義のために戦った長岡藩家老河井継之助と長岡藩一行を温かく迎え入れた只見の人びとの出会いを記念して、1972年に開館。その後、1993年にリニューアルし、終焉を迎えた矢沢家の一部を移築保存し、戊辰戦争に関する資料とともに今に伝えています。

会期 7月18日(土)—11月15日(日)

〈時 間〉10:00～16:00(最終受付)
〈休館日〉毎週木曜日(祝日の場合は開館)
〈観覧料〉大人350円(300円)
小・中学生200円(150円)
()内は団体20名以上

〒968-0411
福島県南会津郡只見町大字塩沢字上の台850-5
TEL.0241-82-2870

展示内容

継之助終焉の間が移築保存されている他、司馬遼太郎「峠」コーナー、司馬遼太郎の揮毫、ガトリング砲(複製)、長岡や只見における戊辰戦争や八十里越などの資料が展示されています。終焉を迎えた(当時、村医だった)矢沢家の医者の道具など貴重な資料も展示されています。継之助の生き様や幕末の雰囲気を感じていただければ幸いです。隣接した「山塩資料館」も見所の一つです。



1 河井継之助の生涯

幼少期より学問に励み、江戸や西国への遊学を通じて、師と出会い、揺れ動く幕末の国内情勢について知見を広めました。戊辰戦争において長岡藩家老に抜擢され、非戦を訴えたが不本意な形で戦争に巻き込まれていった継之助の生き様を追います。



2 長岡の戊辰戦争 ガトリング砲

戊辰戦争に当たっては武装中立を主張。交渉は決裂し長岡の人々を守るため、当時日本には3門しかなかったガトリング砲2門を購入し、応戦しました。



3 「峠」の世界

歴史作家司馬遼太郎は、小説「峠」(1968年発行)で継之助の激動の生涯を描きました。ここでは、継之助が只見で過ごした最後の12日間を紹介しています。



4 司馬遼太郎の書



6 只見の戊辰戦争

4

小説「峠」の連載後、司馬遼太郎は継之助終焉の地である只見を訪れ「山水相應蒼龍窟」「壺中天」の2つの揮毫を残しました。館の外には、揮毫する前に司馬遼太郎が眺めた風景を臨むことができます。

5

継之助が越えた八十里越は、古来より会津と越後を結ぶ交通の要衝でした。現在は一部が登山道として残っていますが、大部分は深いブナ原生林の下に眠っています。

6

会津藩領であった只見も戊辰戦争に巻き込まれ、郷兵隊を組織して西軍と戦った。一方、只見の人々は、長岡から落ちのびてきた長岡藩一行を温かく迎い入れました。当時代官を務めていた丹羽族についても知ることができます。

7

只見の人々の尽力も空しく、継之助はこの終焉の間で息を引き取りました。この終焉の間は、村医矢沢宗益の家を移築保存したもので貴重な医者の道具を展示しています。



5 八十里越



7 河井継之助終焉の間



施設情報

『青天を衝け』『風、薫る』のロケ地となった施設です。ロケを行った移築古民家「染屋」では10月12日(月)まで藍染体験を実施しています(要予約)。体験料=ハンカチ1200円から(別途入館料がかかります)

会期 7月18日(土)—11月30日(月)

〈時 間〉 9:00～16:00

〈休館日〉 会期内無休

〈観覧料〉 大人300円 高校生200円
小・中学生100円 (20名様以上50円引き)

〒967-0014
福島県南会津郡南会津町糸沢字西沢山3692-20
TEL.0241-66-3077

展示内容

●熊野縁起絵巻と懸仏

仏教と深く習合した熊野信仰と勧請に着目し、「熊野縁起絵巻」や「懸仏」を展示。奥会津における信仰の伝播のようすを紹介します。

●「八十里越新道記」を読む—南山御蔵入代官・平岡文次郎の功績—

「八十里越新道記」は、平岡代官が主導した天保14年(1843)の八十里越大改修の記録書です。本展では同名本3冊を展示し、当時の改修事業を紐解きます。さらに、「八十里みち」と彫られた藤生古檜峠の道標も展示。



1 熊野縁起絵巻(宮本熊野神社)

紀州熊野の那智宮・新宮・本宮の三所権現の本地に関する物語が絵と仮名交り文を交互に配した形で描かれています。天文九年(1540)の奥書があり、日本最古級といえます。



2 阿弥陀如来坐像御正鉢(宮本熊野神社)

御正鉢は、神仏習合の信仰により御神体の鏡を模した円板等に仏像を配したもので、この御正鉢は宮本熊野神社に奉納されたものです。これらは地域信仰の歴史を知る上で重要な資料です。

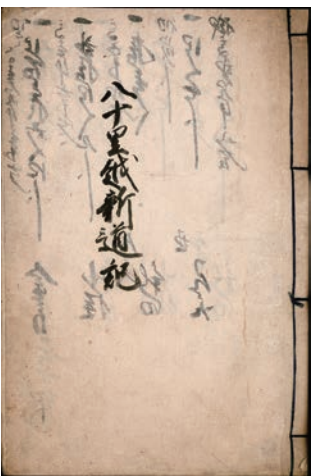


3 阿弥陀如来坐像扇面御正鉢(宮本熊野神社)

旧田島町域は御正鉢を用いた信仰が盛んでした。多くが円形であるのに対し、この扇面形の御正鉢はとても希少です。



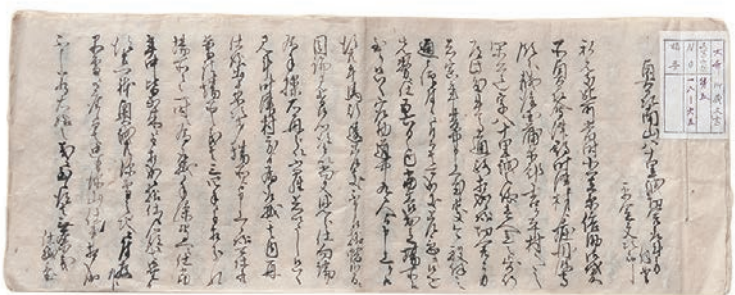
4 薬師如来坐像御正鉢(藤生熊野神社)



6 八十里越新道記(写)



5 藤生(とうにゅう) 古檜(こび) 峠の道標



7 奥州南山八十里越切開取計方向書(写)

4

南会津町藤生地区の熊野神社に奉納された御正鉢。優れた製作技術に加え、裏板に「康永二年(1343)」の墨書銘が見えます。同神社には八面の御正鉢が伝わり、地域の熊野信仰の厚さを物語っています。

5

弘化2年(1845)藤生村(南会津町)が建立した馬頭観世音碑の台座が「八十里みち」と彫られた道標。古檜峠と八十里越が繋がっていたことを意味します。
南会津町藤生区所蔵

6

元南山御蔵入代官・平岡文次郎が主導し、天保14年(1843)に実施された八十里越改修工事の記録書。
南会津町中荒井 渡部雅俊氏所蔵

7

元南山御蔵入代官・平岡文次郎が、八十里越の改修工事の実施を幕府に願った伺い書。
金山町教育委員会所蔵

やないづ縄文館

～土器とくらしのミュージアム～

柳津町



施設情報

縄文時代中期の石生前遺跡出土品を中心に、多数の土器や土偶を展示しています。東北系、北陸系の様々な土器をご覧ください。また、地域住民の皆様の協力を得ながら、近現代の生活文化も紹介しています。

会期 7月18日(土)―9月13日(日)

〈時 間〉9:00～16:00

〈休館日〉1階展示スペース無休 2階収蔵庫部分 不定休

〈観覧料〉無料

〒69-7201

福島県河沼郡柳津町大字柳津字下平乙151

TEL.0241-42-3511(柳津町中央公民館)

展示内容

柳津町柳津には、只見川の河畔の岩場に虚空蔵尊(円蔵寺菊光堂)があり、古くから数多くの人々が参詣しています。奥会津の人々が只見川沿いに柳津まで歩いた道はどうだったか?江戸時代と近現代の様子を紹介します。また江戸時代の九州宮崎の佐土原藩の修験者・野田泉光院が旅の記録を残しています。



1 福島県指定重要文化財 人体像把手付土器

柳津町北部の細越地区に所在する池ノ尻遺跡から発見された土器で1階に展示。口縁部に向かい合うように土偶状の人体像把手が付けられています。通称:イケちゃんとして親しまれています。



2 火炎系土器

東北系と新潟系の特徴を併せ持つ土器です。口縁部は縄文を持たない立体的な造形、胴部には東北系の縄文が見られます。会津地方の他地域の交流をうかがわせる貴重な資料です。



3 竪穴住居と複式炉

縄文時代の竪穴住居の復元をご覧ください。また、住居内部には石生前遺跡から移設した複式炉が展示されています。複式炉は北関東と東北地方の一部で見られる珍しい炉です。



4 野田泉光院墓碑(宮崎県宮崎市佐土原町)



6 『岩代國柳津圓蔵寺略縁起』(明治32年)

4

文化9年(1812)9月3日に宮崎を出て、文化13年(1816)8月23日に従者の斎藤平四郎とともに柳津虚空蔵堂に参詣。会津の経路を旅日記から示す。墓碑は2017年1月菅家博昭撮影。

5

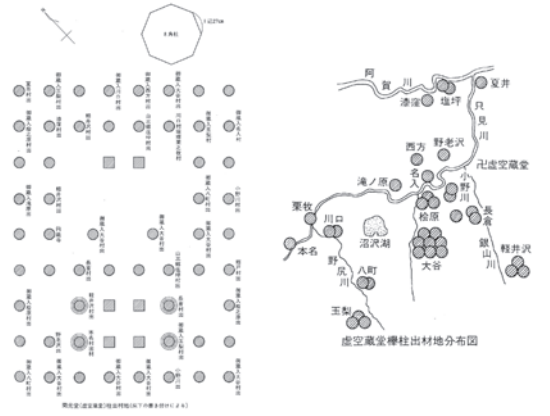
文政12年(1829)落成の虚空蔵堂の柱の下部には献納村名があり、奥会津地域の村々が堂を支える意味を持ちます。主にケヤキ材ですがシオジ(*Fraxinus spaethiana*)もあるようです。

6

明治32年(1899)に制作された柳津圓蔵寺略縁起(複写)。これが貼られた台紙は明治31年11月22日付の福島新聞です。台紙も価値が高い。芳賀英一氏蔵

7

『奥州會津柳津之圖』(複写)は時期不明だが江戸時代と思われる。江戸時代後期の絵師西村中和の作品。宿坊であり寺を支えた六衆徒(六坊)がみえます。芳賀英一氏蔵



5 『柳津町誌』(1977)の虚空蔵堂の柱出村地



7 『奥州會津柳津之圖』(部分、平安法橋中和再画)

三島町交流センター 山びこ

三島町



施設情報

地域内外の交流や地域の活性化を目的とする文化施設です。ギャラリーホール・イベントホール等を備え、歴史文化や芸術文化に関する企画展・イベントを主に開催しています。

会期 7月18日(土)―9月27日(日)

〈時 間〉9:00～17:00(最終入館16:30)

〈休館日〉毎週月曜日・火曜日(どちらも祝日は開館)

〈観覧料〉無料(企画展「奥会津の道」)

〒969-7402

福島県大沼郡三島町大字名入字諏訪ノ上418

TEL.0241-52-2165

展示内容

三島会場では、沼田街道・美女峠街道・野沢(西方)街道といった各街道の開修、悲願であった鉄道(現只見線)の延伸、川の両岸を結ぶ橋の架設、夏冬の履き物や運搬のための用具……『道』にまつわる、主に明治期から昭和期にかけての資料や写真、民具等を展示することで、道の変遷によって生じた様々な変化を捉えます。



1 (伊勢)太神宮 御師 堤大夫(早戸・五十嵐家文書)
熊野太神宮 御師 橋本大夫(早戸・五十嵐家文書)

三島町では伊勢参りについて記された江戸期の『参宮道中記』が数冊、大正期のものが1冊確認できます。この2枚の御札には、この地域を檀那場としていた御師の名が記されています。



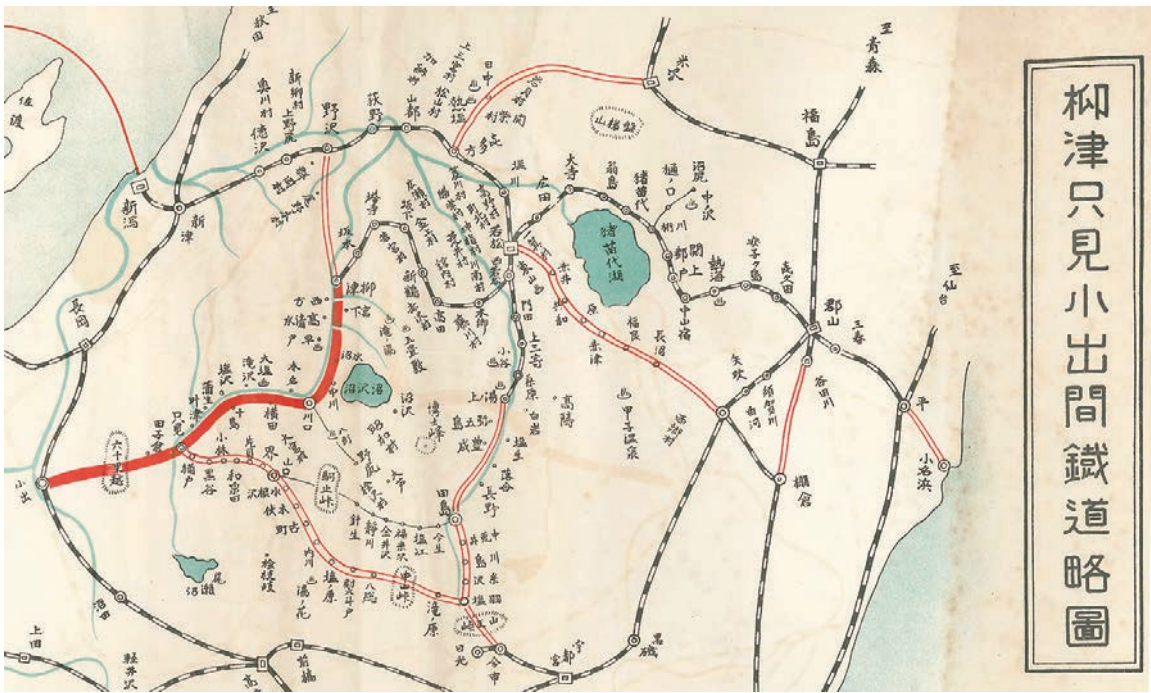
2 明治33年 西方・麻生間の事業交換約定証(控)

西方(現三島町)と麻生(現柳津町)間の事業交換約定証の控。西方からは麻生までの道路開修を求めています。明治35年よりはじまる野沢街道(西方街道)開修事業の先駆けの可能性。



3 昭和50年代か 踏み俵での道踏み(齋藤茂樹氏撮影)

雪の上に道をつける踏み俵。明治44年には西川村外二ヶ村組合の村会において、冬の通学のための「道踏み」に対し補助金を出してはどうかと、町議員からの建議がありました。



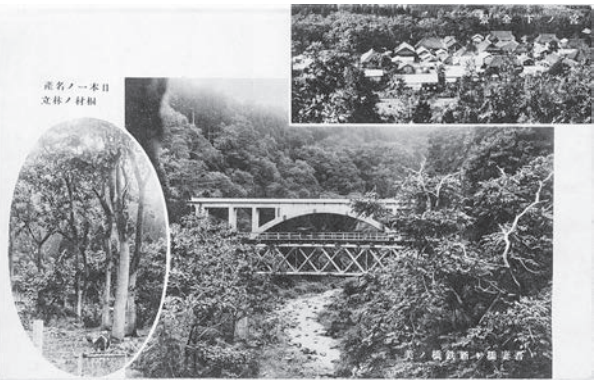
4 昭和9年 陳情書添付柳津只見小出間鉄道路略図(周辺部省略)

川口線列車時刻表												朝方へ午前 夕方へ午後	
下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上
会津若松	会津宮下	会津柳津	会津柳津	会津柳津	会津柳津	会津柳津	会津柳津	会津柳津	会津柳津	会津柳津	会津柳津	会津柳津	会津柳津
5:50	6:50	7:30	7:30	7:49	7:54	8:00	8:05	8:05	8:05	8:05	8:05	8:05	8:05
7:43	8:43	9:22	9:22	9:33	9:38	9:44	9:49	9:49	9:49	9:49	9:49	9:49	9:49
10:20	11:20	11:55	11:55	12:03	12:08	12:14	12:19	12:19	12:19	12:19	12:19	12:19	12:19
0:25	1:25	2:03	2:03	2:14	2:19	2:25	2:30	2:30	2:30	2:30	2:30	2:30	2:30
2:10	3:10	4:10	4:10	4:21	4:26	4:32	4:37	4:37	4:37	4:37	4:37	4:37	4:37
4:15	5:15	5:50	5:50	6:01	6:06	6:12	6:17	6:17	6:17	6:17	6:17	6:17	6:17
6:35	7:35	8:15	8:15	8:26	8:31	8:37	8:42	8:42	8:42	8:42	8:42	8:42	8:42
8:15	9:15	9:50	9:50	10:01	10:06	10:12	10:17	10:17	10:17	10:17	10:17	10:17	10:17
10:15	11:15	11:50	11:50	12:01	12:06	12:12	12:17	12:17	12:17	12:17	12:17	12:17	12:17
12:15	1:15	1:50	1:50	2:01	2:06	2:12	2:17	2:17	2:17	2:17	2:17	2:17	2:17
14:15	15:15	15:50	15:50	16:01	16:06	16:12	16:17	16:17	16:17	16:17	16:17	16:17	16:17
16:15	17:15	17:50	17:50	18:01	18:06	18:12	18:17	18:17	18:17	18:17	18:17	18:17	18:17

5 昭和17年 川口線列車時刻表

4

「柳津只見小出間鉄道敷設ニ関スル陳情書」に添付された略図。「野岩羽及会津線鉄道速進期成同盟」が熱望していた「一、山形県米沢ヨリ福島県喜多方ニ至ル鉄道 二、福島県柳津ヨリ只見ヲ経テ新潟県小出ニ至ル鉄道及只見ヨリ分岐シテ古町ニ至ル鉄道 三、栃木県今市ヨリ福島県田島ニ至ル鉄道 四、福島県柳津ヨリ野沢ニ至ル鉄道 五、福島県田島ヨリ館岩ヲ経テ古町ニ至ル鉄道」が描かれています。実現した路線もあれば、実現せず構想で終わった路線もあります。



6 昭和20年前後発行絵ハガキ
宮ノ下全景
吾妻橋ト新鉄橋ノ美
日本一ノ名産桐材ノ林立

5

昭和17年の川口線(現只見線、当時、会津宮下駅が終点)の時刻表です。会津若松と会津柳津～会津宮下間の発車時刻が記されています。会津松原の発着が2便しかないのは、当時、会津松原がまだ「仮停車場」であったことが理由として考えられます。

6

宮下商業組合青年隊が発行した絵ハガキの一枚。昭和32年に宮下橋として架け替える前の吾妻橋(東橋)と川口線(現只見線)の大谷川橋梁が写っています。また、宮下を宮ノ下と書いており、古くはミヤシタではなくミヤノシタと発音していたという話との整合性がうかがえます。

東北電力 奥会津水力館「みおり」 金山町



施設情報

「みおり」では、戦後復興期の電力を支えるため大規模な電源開発が行われた奥会津地域の水力発電の特徴や歴史的意義、自然や文化など多様な魅力を紹介しています。また地域住民の文化・芸術交流の場として館内施設の貸出も行っています。

会期 7月18日(土)—9月27日(日)

〈時 間〉10:00～16:30(最終入館16:00)
〈休館日〉毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)
〈観覧料〉無料

〒968-0006
福島県大沼郡金山町大字中川字上居平933
TEL.0241-42-7771

展示内容

北側ギャラリーに古い只見線の写真を、企画展示室には近代前半まで道を行き交った人力車や牛馬に関する民具を展示します。9月以降はラウンジに只見線の歴史と、雪害や水害に遭いながらも鉄道含め生活のための道を維持してきた人々の姿を記録した写真を追加で展示します。昔を懐かしみながら、あるいはかつての懐ましくも逞しい人々に思いを馳せながら御覧いただければ幸いです。



1 牛の荷鞍

牛に荷物を背負わせて運ぶための鞍。昭和30年代までは牛馬での運搬が主でした。木枠の頂点が千木に似た×形のものと山型のものがあります。



2 牛の藁沓

長距離の荷物運搬をさせるときに牛に履かせたワラグツ。チョコキの形をしている牛の爪先に合わせた形をしています。



3 馬の鈴

馬の首にかけさせた鈴。馬の存在を知らせるほか、魔除け・獣除けや、後続の馬を先導するためとも考えられています。



4 只見線全通記念列車



6 ローター車



5 第5只見川橋梁を走るSL



7 平成23年の第5只見川橋梁

4

昭和46(1971)年の只見駅、国鉄只見線の若松—小出間全通記念列車の写真。列車の正面に飾りをつけて、右側に映るホームではくす玉が割られ、大勢の人に囲まれてお祝いムードです。

5

昭和46(1971)年ごろの写真。第5只見川橋梁を走るSLが水面にも写っています。この頃は赤い橋だったようです。背後に写る今よりずっと木が少ない山にも時代を感じます。

6

昭和30(1955)年、新潟県魚沼市側の只見線の写真。ロータリー車とは、回転する羽根で雪を遠くへ吹き飛ばして除雪する機関車のこと。マックレー車で線路両脇の雪の壁を崩してロータリー車で遠くへ散らします。

7

平成23(2011)年7月末、新潟・福島豪雨で一部の橋桁が流され破損した第5只見川橋梁の様子。只見—川口区間の被害が大きく、第7橋梁と第6橋梁は完全に流失し、第8橋梁付近の盛土は広範囲で崩れました。

からむし工芸館

昭和村



施設情報

昭和村の道の駅敷地内にある「からむし工芸博物館」では、昭和村の人々の知恵や工夫を紹介しております。からむしの歴史や様々な収蔵品を、営みにまつわる道具とともに展示しています。

会期 7月18日(土)—11月8日(日)
〈時 間〉 9:00～17:00(最終入館16:30)
〈休館日〉 無休(4月～11月)
※12月～3月については不定休
〈観覧料〉 高校生以上300円 小中学生150円

〒968-0215
福島県大沼郡昭和村大字佐倉上ノ原1
TEL.0241-58-1677

展示内容

昭和村では古くから「からむし」という植物を栽培し、「からむしだけではなくすなよ」という先人たちの言葉を忠実に守り、その技術を継承してきました。昭和村のからむしは、新潟の小千谷縮・越後上布の原料となっており、現在でもそれは続いています。そんなからむしに関する道具や歴史を紹介するとともに、からむしが新潟(越後)へ出荷される道のりを知っていただければと思います。



1 小千谷縮

小千谷縮とは、緯糸に強い撚りをかけ、布を縮ませてできた「シボ」が特徴の夏衣です。この原料には古くから会津地方で栽培されたからむしが使用され、現在でも昭和村の「からむし」が使用されています。



2 触れるからむし

からむしは現在昭和村で栽培されているほか、韓国や沖縄でも栽培されています。これらのからむしに触れることでそれぞれの特徴や違いを比較することができます。



3 触れる小千谷縮・越後上布

昭和村のからむしを原料として作られる小千谷縮・越後上布に触ることができます。からむしの繊維と一緒に触って感触を確かめていただけます。



4 本荷



6 陰干しの様子



7 からむし繊維

4

からむしは、繊維を取り出し乾燥させた後、100匁(375g)に結束され、25把で1束にします。これを4つ重ねて合計100把=10貫匁(約40kg)にまとめてひとつの荷物にしたものが「本荷」で、からむしを傷つけず、なるべく小さくするための梱包方法でした。

5

昭和村の人々は、からむしを商品としてより美しく、そして大切に「結束」の作業を行います。肩がしっかりと張り、ふわっとボリューム感のある結束が良いとされています。

6

からむしは陰干しをし、座敷などのきれいな場所を選ぶようにします。からむしをかけて干す竿「はからむし竿」といって、杉の一寸角位の節の無いものを使用します。

7

からむしの繊維を取り出す作業は、一連の作業の中でもひときわ熟練の技術を必要とします。この作業で「キラ」と呼ばれる光沢を引き出すことができれば一人前と言われます。

大内宿町並み展示館 (大内宿本陣跡)

下郷町



施設情報

大内宿の本陣は、会津若松と日光今市を結ぶ下野街道の拠点のひとつとして江戸時代初期に建てられ、会津藩主の江戸参勤にも利用されました。大内宿は、戊辰戦争の戦場にもなったことから、本陣に関する記録、図面等が散失し発見されていません。このため現在ある建物は、同じ街道の糸沢宿、川島宿の本陣を参考に設計し、昭和59年に復元したもので、宿場のほぼ中央に位置しています。

会期 7月18日(土)—11月30日(月)

〈時 間〉 9:00～16:30

〈休館日〉 12月29日から翌年1月3日まで

〈観覧料〉 個人 大人250円 小・中学生150円

団体(30人以上) 大人200円 小・中学生100円

※未就学児は無料です

〒969-5207

福島県南会津郡下郷町大字大内字山本8番地

TEL.0241-68-2657

展示内容

大内宿町並み展示館内では、江戸時代の面影を今に伝える大内宿の歴史や文化、住民による町並み保存の歩みを紹介する施設です。館内では茅葺に関する資料や昔の民具などが展示されており、宿場町として栄えた当時の暮らしや人々の知恵に触れることができます。大内宿の魅力と価値を学ぶことができる学習・交流の拠点です。



1 農業用具や生活用具など

米作りが機械化される前に使用されていた生産・生活用具や、電気やガスが普及する前の日常生活で使用されていた様々な用具が展示されており、間近で見ることができます。



2 林業用具など

現在のような動力機械が導入される以前は、木材の伐採や製材を職人に頼っていました。各々の作業は技術と体力を要し、また、時間も要していました。



3 上段の間・次の間

大内宿町並み展示館として復元した本陣内には、殿様専用の玄関(乗りこみ)、上段の間、次の間、中の間、風呂、雪隠等があり、茅屋根のどっしりとした風格とともに当時の面影を色濃く再現しています。



4 いろり



6 大内宿半夏まつり

4

カッテにあるいろりでは、一年中薪を燃やしており茅葺屋根の保存にも一役かっています。現代ではいろりのある生活も少なくなっているため、貴重な体験をすることができます。

5

館内には、伝統的な茅葺技術の紹介や茅葺屋根の実物展示を行うスペースがあり、大内宿の景観の特徴ともなっている茅葺屋根の構造や茅屋根の葺き方等を知ることができます。

6

大内宿半夏まつりは、「高倉大明神御禮祭」の名称で古くから執り行われてきた祭りであり、関係資料からは300年以上続いて来たことが伺えます。古くから次の世代へと代々受け継がれてきたこの祭りは、地域の信仰、風習を知る上で貴重な民族文化となっています。

7

宿場北側の街道沿いにある櫻木姫墳。櫻木姫は以仁王に従って会津に入った一人と云われ、長旅の疲れから十八歳の若さで亡くなり、以来、遺体を葬ったこの地を「御側原」と呼ぶようになったと伝えられています。



5 茅葺き資料展示



7 櫻木姫墳

西会津国際芸術村

西会津町



施設情報

廃校の木造校舎を活用したクリエイティブセンター。国内外のアーティストによる滞在制作や展示のほか、イベントやワークショップ、コンサート、公募展なども開かれ、多彩な表現と出会える場所です。

会期 7月18日(土)―9月13日(日)

〈時 間〉10:00～17:00

〈休館日〉毎週月曜日・火曜日(祝祭日を除く)

〈観覧料〉大人300円 子共(中学生以下就学児童)100円

〒969-4622

福島県耶麻郡西会津町新郷大字笹川字

上ノ原道上5752番地

TEL.0241-47-3200

展示内容

かつて西会津と三島を結んだ西方街道は、海産物や塩、木材などが行き交う重要な道だった。2016年、この街道をテーマにリサーチをし、郷土料理と創作料理を披露するアートプロジェクト「幻のレストラン～海と山の結婚式～」が、福島県|森のはこ舟アートプロジェクト2015の西会津エリアプログラムとして西会津国際芸術村で開かれました、その記録を写真と映像で紹介します。



1 「幻のレストラン～海と山の結婚式～」動画

2016年、西会津国際芸術村で開催されたイベント「幻のレストラン～海と山の結婚式～」の紹介動画



2 「幻のレストラン～海と山の結婚式～」動画

2016年1月30日、西会津・三島の両町長や、リサーチでお世話になった方々、西方街道に関わりのある方々が招待され、約2時間にわたる1日限りの「幻のレストラン」がオープンしました。



3 二品目「海から来た山の食べ物」:写真展示

えごねり・イカ人参・ニシンの山椒漬、会津のハレの日に食べられる郷土料理には海から運ばれてきた食材がとて多いです。



4 四品目「こづゆちらし寿司」:写真展示



5 五品目「えご出汁櫃まぶし」:写真展示



6 幻のレストランプロジェクトチーム



7 西会津国際芸術村 じぶんカフェ:展示会場

4

会津や福島の代表的な伝統料理、こづゆをちらし寿司にしました。

5

きのこや貝柱の出汁も出ていますが、えご草を溶かして入れるとものすごく味わい深い良い味になります。

6

プロジェクト・アーティスト: EAT&ART TARO コラボレーション・アーティスト: 木村正晃 西会津エリアコーディネーター: 矢部佳宏 三島エリアコーディネーター: 三澤真也 主催: 福島県|森のはこ舟アートプロジェクト実行委員会

7

イベント会場にもなった、カフェのふりした無料休憩所『じぶんカフェ』。WiFiあり・お湯あり・電源あり・全館禁煙・飲食物持込可。展示を楽しみつつご自由におくつろぎください。(※2Fの展示は有料です)

会津美里町郷土資料館 さとりあ

会津美里町



施設情報

さとりあでは、町のプロフィール・山村・農村・町場の4つのテーマを設け、会津美里町の歴史・文化を深く学ぶことができます。また、実際に見て触れて体験できるコーナーや特別展示室があります。

会期 7月18日(土)―11月30日(月)
〈時 間〉 9:00～16:30(最終入館16:00)
〈休館日〉 毎週火曜日(火曜日が祝日の場合はその翌平日)
〈観覧料〉 町内大人(一般) 110円
町内小中学生・高校生 無料
町外大人(一般) 220円
町外小中学生・高校生 110円

〒969-6495
福島県大沼郡会津美里町鶴野辺字広町740番地
TEL.0242-79-1900

展示内容

会津美里町は、三方をほぼ山で囲まれているという地理的特徴があります。他の地域へ移動するには、必ず峠越えをしなければならず、そのため数多くの道がありました。峠道は通行のみならず、行き交う人々の交流や物流を支えていました。後に、それらの道の多くは乗用車等が通行できるように整備され、現在でも本町と各地を結ぶ道として機能しています。特別展では、本町の峠道について、歴史的事象や資料とともに紹介します。



1 町のプロフィール
会津美里町の大地の成り立ち、地理的状況や歴史年表、町の特産品や文化財などを紹介しています。



2 山村の仕事道具
ダム建設に伴い、水没した松坂地区。かつて、そこに暮らす人々が生業にした山の仕事について、道具とともに紹介しています。



3 機織り機(高機)
農家では、服や布団、帯といった生活用品を作るために欠かせない道具でした。さとりあでは、機織り体験もできます。



4 氷玉峠頂上の石畳



6 博士地藏尊



5 『日本奥地紀行』の原書



7 大岩観音堂(2006年撮影)

4 江戸時代に会津五街道の一つとして整備された「下野街道」は、若松城下から江戸に通じる主要な街道です。参勤交代が通った道でもあり、会津美里町栃沢と下郷町大内の間にある氷玉峠には石畳が残されています。

5 市野峠は、大内宿から会津高田、会津坂下を経て、越後街道へ抜ける最短ルートとして、多くの人やモノの行き来がありました。明治11年には、英国人旅行家イザベラ・バードがこの峠を越えていきました。

6 博士峠は、標高約1000mのところにあり、かつては冬期間の通行は難航を極め、遭難者もいたようです。現在では博士トンネルができて行き来は容易になりました。沿道には地藏尊が祀られています。

7 かつては、現在の会津美里町西部と柳津町東部を結ぶ狭間峠という峠越えの道があり、明神ヶ岳の登山道の一部にもなっています。麓にあった大岩集落には、会津三十三観音札所である大岩観音があります。

日光市歴史民俗資料館・二宮尊徳記念館

日光市



施設情報

当館は、日光街道・例幣使街道・会津西街道の3つの街道が合流する今市に所在し、幕末に農村復興事業を実施した二宮金次郎(尊徳)が最期を迎えた報徳役所の跡地に建っています。また国の特別史跡と特別天然記念物である日光杉並木街道のビジターセンターの役割も担っています。

会期 7月18日(土)―12月20日(日)

〈時 間〉 9:00～17:00(最終入館16:30)

〈休館日〉 月曜日、祝日の翌日(土日祝日は除く)、
10月10日―10月12日(施設くん蒸期間)

〈観覧料〉 無料

〒321-1261

栃木県日光市今市304-1

TEL.0288-25-7333

展示内容

日光市と会津若松市を結ぶ会津西街道は、会津藩の参勤交代や廻米輸送の道として利用されました。また街道沿いで独自に発達した仲附(駕者)と呼ばれる輸送業者は、会津の産物を今市へ輸送し、その帰りに塩や味噌などを持ち帰っており、会津西街道は塩の道としても重要な役割を持っていました。

本展では会津西街道をはじめ、日光と会津を結んだ道の変遷や行きかった人やモノに注目して、広域的に展開されていた日光―会津文化圏について紹介します。



1 ニグラ(日光市所蔵)

馬の背に荷物を積んで運ぶ際に使用する鞍です。1頭の馬に約30貫(112.5kg)の荷物を載せていました。



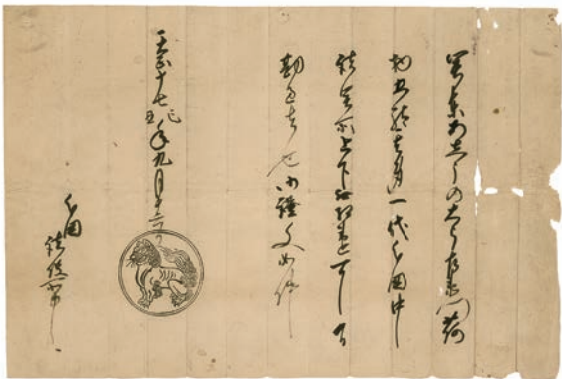
2 ドチャガマ(日光市所蔵)

馬の脊紐を切るために使用した鎌です。仲附(駕者)は常にこの鎌を腰に提げていました。



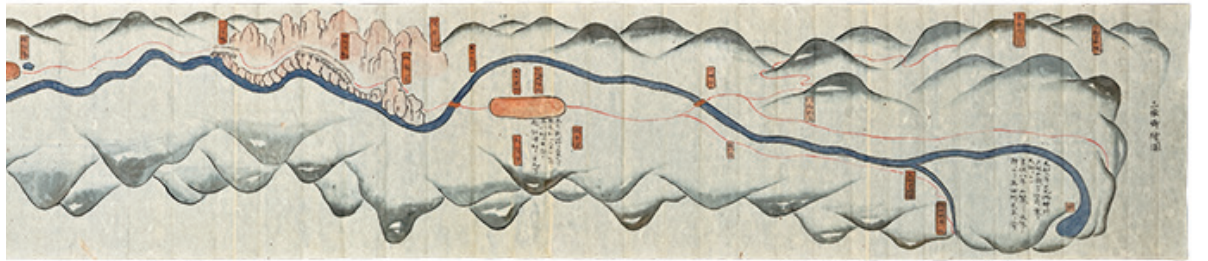
3 イジッコ(日光市所蔵)

岩芝(ミヤマカンスゲ)を縄にして、袋状に編んだものです。岩芝は、丈夫で水に強く、縄にするのに適していたため山仕事や仲附の必需品でした。

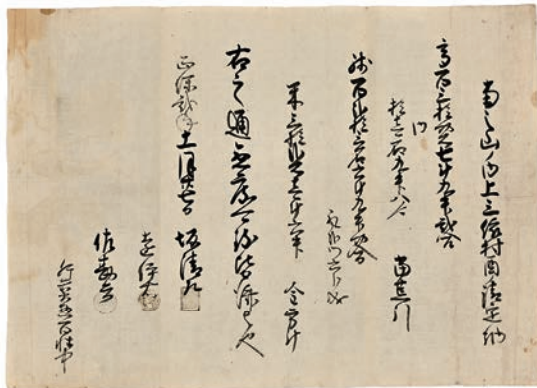


4 天正17年 伊達政宗過所(足尾原文書、当館寄託)

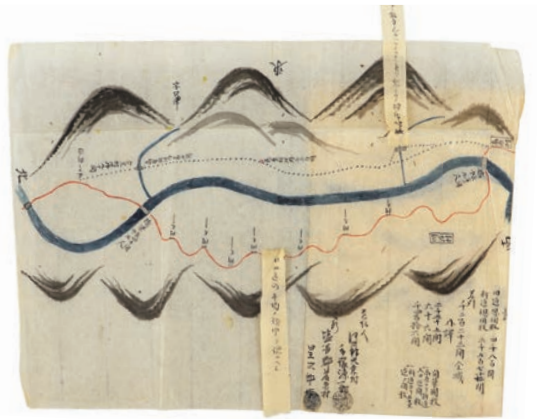
伊達政宗が足尾の太郎左衛門へ与えた過所(通行許可証)です。この史料が発給された当時、伊達政宗は黒川城(のちの若松城)におり、足尾と会津をつなぐ道の存在と人・モノの行き来があったことを裏付ける史料です。



5 天保9年 三依郷絵図(赤羽佐介家文書、栃木県立文書館寄託)



6 正保2年 南之山ノ内上三依村西ノ請定納(個人蔵)



7 明治10年 〔高原五十里間新道開築二付願書綴〕(星七郎家文書、当館寄託)

5

三依郷六ヶ村の位置関係を描いた絵図です。三依郷を縦断する会津西街道も描かれており、五十里村で会津西街道・「川路新道」・「西川道」の三本に分かれて、それぞれ南下しています。また上三依村・中三依村からそれぞれ東西に延びる街道も描かれています。

6

保科正之が会津藩主になった2年後の上三依村の年貢割付状です。南山御蔵入領の上三依村は、当時会津藩の預支配の下にあり、差出人の3人は会津藩士です。また宛名の「肝煎」は、当該地域だと江戸時代の初期にのみみられる名称です。

7

明治10年に五十里村と移転後の高原村を結ぶ新道が開削されました。開削には西洋の技術である「鉄炮仕掛け」が用いられ、岩石が除去されました。多額の費用が掛かったため、通行人や馬に通行料を課し、栃木県から借りた2,000円を10年間で返済する計画を立てていました。

河井継之助記念館

長岡市



施設情報

幕末の長岡藩政を担った河井継之助の屋敷跡に、長岡市政100周年を記念して平成18年に開館し、今年、開館20周年をむかえました。継之助が暮らした当時の面影が残る庭や、継之助が西国遊歴の際に買い求めた蓑（みの）、作家司馬遼太郎の小説『峠』関連資料などがみなさまをお待ちしています。

会期 7月18日(土)―

〈時 間〉10:00～17:00(最終入館16:30)

〈休館日〉毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)
12月29日～翌年1月3日

〈観覧料〉大人個人200円

高校生・大学生・障がい手帳お持ちの方と
介助者個人150円

小・中学生個人100円(各団体割引あります)

〒940-0053

新潟県長岡市長町1丁目甲1675-1

TEL.0258-30-1525

展示内容

幕末の長岡藩政を担った河井継之助ゆかりの品々など約30点を常設展示。また、慶応4年(1868)、会津を目指し、八十里越の難所を越えた河井継之助、長岡藩兵とその家族1,600人以上の軌跡をパネルで紹介しています。

開館20周年記念特別展示「いま、新たな継之助に出会う!～初公開史料が語る真実～」(～令和9年1月25日)も必見です。



1 ガトリング砲(複製)

慶応4年(1868)、長岡藩は2門購入し、長岡城攻防戦に使用。手動機関銃。



2 風雲 蒼龍窟(河井継之助像)

平成21年(2009)3月、長岡市と河井継之助記念館友の会が力を合わせて制作。腰に帯びた大小の刀、短靴や右手に持つ望遠鏡など、現存する肖像写真に継之助の人となりのイメージを反映させて創作した銅像。制作者は峰村哲也氏。



3 長岡藩旗(複製)

長岡藩主牧野家の家紋(丸に三ツ柏)や合印(五間梯子)。



4 河井継之助記念館(旧河井代右衛門家屋敷跡)庭園



5 河井継之助記念館(旧河井代右衛門家屋敷跡)庭園の燈籠



6 継之助の父河井小雲ゆかりの茶釜



7 開館20周年記念特別展示の展示風景(一部)

4

長岡城外曲輪の北、長町門(神田橋門)前方を守る位置に、19世紀初頭、継之助の祖父、河井代右衛門秋恒の時代から幕末の継之助の時代までおよそ60年、河井代右衛門家の屋敷跡に当館はあります。往時をしのぶ庭園も必見です。

5

基壇から宝珠までの高さ約190cmの堂々たる燈籠です。火袋には継之助の父、河井小雲がたしなんだという茶道を象徴するように、茶碗と茶筌の彫刻などがあります。小雲と親交をむすんだ良寛禅師も御覧になったかも知れません。

6

胴には銘「大徳寺常住釜 龍宝山茶堂」。伝京都の釜師下間庄兵衛作。長岡藩では第9代藩主牧野忠精(1760～1831)が茶道宗 徧流を積極的に取り入れたため、家中でもさかんに茶会が開かれました。継之助を育んだ河井家の文化的素養が伺えます。

7

「いま、新たな継之助に出会う!～初公開史料が語る真実～」と題して令和9年1月25日(月)まで特別展示を開催しています。新発見の貴重な史料(書幅・書状)をもとに、新しい視点から継之助の人物像を探っていただければ幸いです。

諸橋轍次記念館

三条市



施設情報

『大漢和辞典』編纂の偉業を成し遂げた三条市名誉市民の諸橋轍次博士の記念館です。郷里をこよなく愛した博士の貴重な遺品や遺墨などが展示されています。敷地内には、三条市指定文化財諸橋轍次博士生家、和風・漢風庭園、登録有形文化財遠人村舎などがあり見学・散策できます。

会期 7月18日(土)—9月23日(水・祝)

〈時 間〉 9:00～17:00(最終入館16:30)
 〈休館日〉 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
 〈観覧料〉 常設展500円、本企画展のみの場合は無料

〒955-0131
 新潟県三条市庭月434-1
 TEL.0256-47-2208

〒955-0166
 新潟県三条市上大浦670番地
 三条市市民部生涯学習課 文化財係事務室
 TEL.0256-46-5205

展示内容

歴史の道八十里越は、江戸時代以前から中越後と奥会津の人の往来と物流の動脈であり、両地域の暮らしや生業、文化に欠かせない道で、国史跡指定を目指し調査を進めています。この企画展では、中越後と奥会津の重要な往来路であった八十里越の歴史を振り返るとともに、特徴的な遺構である十八坂九十九折、椿尾根切り通し、番屋峠切り通し、鞍掛峠切り通しなどの発掘調査成果を展示します。



1 十八坂九十九折

段数において歴史の道八十里越最大の九十九折。部分的に天保古道九十九折の上に盛土などをして明治新道九十九折が9段築かれています。



2 椿尾根切り通し

番屋山から南に延びる尾根筋を掘り割り作られた高さ約2.6m、長さ約14.5mの切り通し。道路面幅は明治新道の道幅4.5mを保ちます。



3 椿尾根切り通しから出土した蹄鉄

トレンチの壁際約10cmの深さから発見された馬の蹄鉄。明治時代に馬で積荷を運搬していた際にこの場所で落鉄し外れたものと考えられます。



4 中和泉家文書「会越八十里越山道ノ図」(天保14年・部分:新潟県立文書館所蔵)



6 歴史の道八十里越確認調査出土遺物

4

天保の大改修に巨額の資金を拠出した水原(現阿賀野市)の豪商佐藤友右衛門縁の絵図。天保14(1843)年に天保古道が完成した際に描かれたと考えられます。水原から見た方向で描かれ、今も残る地名が見られ興味深いです。

5

標高956m、八十里越でも高い場所にある切り通し。高さ約8.7m、長さ約17m、切り通しの中央部付近から魚沼市域になります。道路面幅は約1.7mしかなく三条市側に荷車がすれ違うためのテラス状遺構が見られます。

6

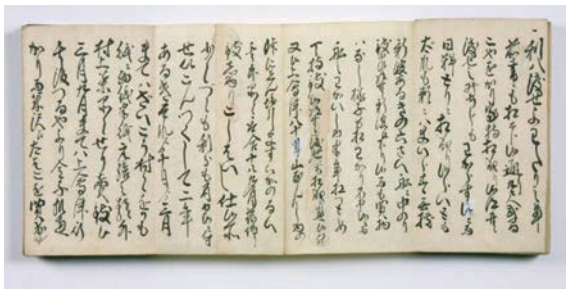
椿尾根切り通しから明治時代の蹄鉄、鞍掛峠切り通し法面上段の平坦面にある山ノ神の台座前から寛永通宝・18世紀後半～末の磁器、空堀小屋跡から煙管・19世紀前半～明治時代の磁器・鉄釘などが出土しました。

7

三条商人石田利八がにしん、塩引、ます、いかのるい、そのほか品々取り合わせ、18～19貫目(約70kg前後)もの荷物を背負い八十里越を越えて会津に行商に行ったことが書かれています。後に利八は三条金物問屋の1人になり出世しました。



5 鞍掛峠切り通し



7 寛政5年「利八渡世よわたりのこと」(石田家文書)

魚沼市歴史資料館

魚沼市



施設情報

魚沼市歴史資料館は、市内の貴重な文化財を紹介し、その魅力を広く発信することを目的に2025年3月に開館しました。館内では魚沼市の文化財に親しみながら旧石器時代から魚沼市誕生までの歴史を学ぶことができます。

会期 9月19日(土)—12月28日(月)

〈時 間〉 9:00～16:30(最終入館16:00)

〈休館日〉 会期中無休

〈観覧料〉 一般 200(150)円
※()内は団体料金(20名以上)
高校 100円
中学生以下 無料

〒946-0051
新潟県魚沼市今泉1488番地1 広神会館1階
TEL.025-793-7782

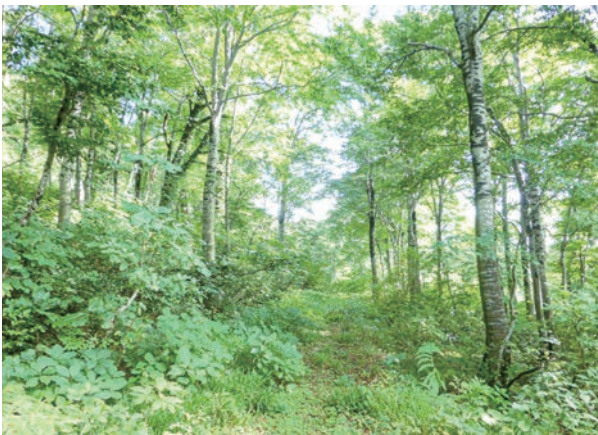
展示内容

新潟県三条市-魚沼市-福島県只見町の2市1町にまたがる歴史の道「八十里越」は一里の道が十里にも感じることからそう呼ばれるようになったといわれています。魚沼市大白川に所在する約4.4kmにわたる区間では、現在までに天保14年に改修された「天保古道」と明治23年に改修された「明治新道」の2つの道が確認されています。企画展では八十里越を中心に道を通じて、人々の生活環境がどのように変化したのか江戸と明治、2つの時代を対比し展示します。



1 歴史の道「八十里越」木ノ根峠切通し(魚沼市側)

越後と会津の国境に位置する木ノ根峠は古くから八十里越の要衝とされてきました。天保14年に大改修された「天保古道」、明治23～27年に開削された「明治新道」。馬から荷車等が通れるように斜面を緩やかにするため「切通し」が設けられました。



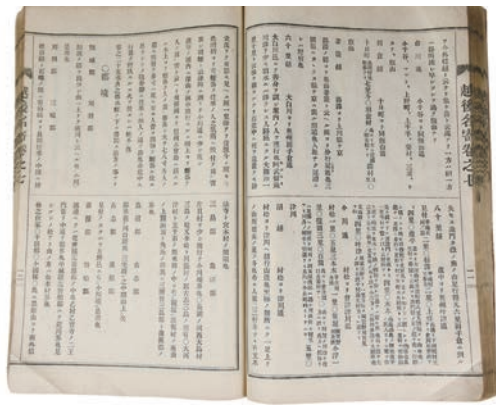
2 歴史の道「八十里越」(田代平-夏)

明治23年に新潟県側は天保古道を踏襲して明治新道が開削されます。しかし、田代平付近は標高を約100m程下に、新たに道が切り開かれました。

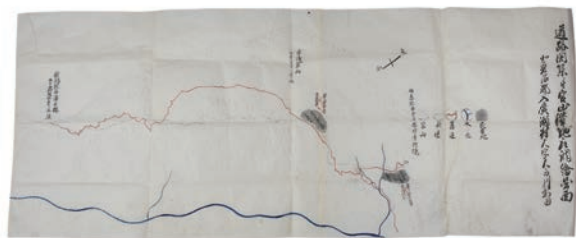


3 歴史の道「八十里越」(木ノ根峠付近-秋)

現地に残る「天保古道」と「明治新道」。周辺には2つの道の切合いが確認され、時代が新しくなっていったことが垣間見えます。



4 『越後名寄』巻之七(大正再版本)



6 「道路開(改)築二付官山潰地取調絵図面」明治23年6月12日付 新潟県知事殿(大白川区有文書)



5 『鎮将府日誌』慶應4年8月



7 明治新道木ノ根峠発掘調査空撮(南西から)

4

丸山元純(1686-1759)が編纂した江戸時代中期の越後百科全書「八十里越」「六十里越」などが記載されています。八十里越の項には各要衝間の道程のほか鋤ノ柄を作り、日が暮れると宿となる家の存在が記述されています。「難所」の文字が多くみえます。

5

新政府側から見た北越戊辰戦争の記録です。「吉ヶ平迄斥候差出候處賊兵二十人計残居候趣二付」「八十里越木ノ根ト申處へ屯集關門相構砲台臺等築造多人數ニテ堅固相守候由」といった記述がみえます。

6

大白川新田から知事宛に提出された文書控付図です。赤線には「舊道」の文字があり、天保古道を指しています。紙に孔を開けそれらを直線で繋いだ測量図であることがわかります。黒色の破線は「新道」とあり、明治新道開削予定地を示しています。

7

現魚沼市側から撮影した「木ノ根峠切通し」と明治新道発掘調査トレンチの航空写真。山際に土側溝が設置され、木ノ根峠の湧水対策のほか、法面には石材による土留め跡が確認されました。道手前が魚沼市、道奥が只見町です。



写真提供:福島県 只見線全通 1971年(昭和46年)



写真提供:只見町 只見線再会 2022年(令和4年)



写真提供:福島県 只見線全通 1971年(昭和46年)



写真提供:滝沢 智宏 風っこ 金山町上横田

奥会津7町村文化施設間連携企画展「奥会津の道」 街道と鉄道 行き交う人・もの・文化

事業主体	只見川電源流域振興協議会（奥会津振興センター） 檜枝岐村、只見町、南会津町、柳津町、三島町、金山町、昭和村及び当核教育委員会	
コアメンバー	菅家 博昭（会津学研究会代表） 渡部 康人（奥会津博物館文化財専門員）	
協力	下郷町、西会津町、会津美里町、日光市、長岡市、三条市、魚沼市	
開催会場	檜枝岐村	尾瀬写真美術館
	只見町	ただみ・モノとくらしのミュージアム
	只見町	只見町 河井継之助記念館
	南会津町	奥会津博物館
	柳津町	やないづ縄文館土器とくらしのミュージアム
	三島町	三島町交流センター山びこ
	金山町	東北電力奥会津水力館「みお里」
	昭和村	からむし工芸博物館
	下郷町	大内宿町並み展示館（大内宿本陣跡）
	西会津町	西会津国際芸術村
	会津美里町	会津美里町 郷土資料館 さとりあ
	日光市	日光市歴史民俗資料館・二宮尊徳記念館
	長岡市	河井継之助記念館
	三条市	諸橋轍次記念館
	魚沼市	魚沼市歴史資料館
デザイン	Ub.物江 あゆみ	
写真提供	長岡国道事務所、福島県、只見町、魚沼市 小林 宗一、滝沢 智宏	
発行	令和8年7月	



